

第60回全道造形教育研究大会IN函館特集

<目次>

- ・大会風景〈表紙〉…………… 1
- ・大会実行委員長挨拶…………… 2
- ・大会を振り返って…………… 3
- ・函館大会に寄せて…………… 4~5
- ・23年度大会のお知らせ…………… 6
- ・プレ大会&60周年記念式典の様子から…………… 7
- ・地区サークル情報…………… 8



北海道
造形教育
連盟報

No.131 2010.12.1発行
 発行 北海道造形教育連盟
 会長 菅原清貴 (札幌市立幌西小学校)
 事務局 札幌市立盤溪小学校 稲實 順
 〒064-0945
 札幌市中央区盤溪226
 TEL(011)642-3223・FAX(011)642-3287



渡島・檜山・函館大会を終えて

第60回全道造形教育研究大会
函館大会

実行委員長 **中村吉秀**
(函館市立亀尾小中学校)

造形教育への熱い思いが交錯し緊張・充実の高まりの中で終了することができた7月28日が、つい昨日のように感じつつ、これからの課題を意識する頃となりました。ここで謝意をあらわす機会をいただきましたので、第60回大会終了の報告とお礼を申し上げます。

■新しい方向性を見出すために

昨年の旭川大会を引き継ぎ、来年の全国大会につなげるために、函館大会はどうあるべきか。さらに、平成23年度から小学校が、平成24年度から中学校が新学習指導要領の完全実施をむかえることを、どのように受け止めるのか。その時の流れと要請が絡み合った節目の大会を函館で開催できたことに、今も喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

会員が減少している函館市美術教育研究会のみで、大会を企画・運営する厳しさを強く感じていたので、渡島美術教育研究会と檜山造形教育研究会に連携と協力をお願いし、一緒に推進するスタンスで対応しました。しかも、研究内容の決定には意図的に非常に多くの時間を費やしました。これは、研究に携わる各メンバーが函館大会に対する理論的な構想をそれぞれ持っていたため、議論することに深まり嬉しい悲鳴となってしまったからです。そして、この議論によって会員がそれぞれ切磋琢磨することができたと感じております。

果たして、この大会の提案が「新しい方向性」を見出すことに、つながっていたのでしょうか。

私たちは「子どもをとらえる視点」がポイントだと思っていました。大会研究主題「感性と知性と出会い 心うるおす造形活動」が表出する公開授業や提言を目指してきましたが、実際子どもたちの活動の様子からどのように見出していったらいいのか、進むべき方向性としては間違いないのですが、非常に難しいなど考えておりました。

しかし、奥村高明調査官の具体的な事例を交えた講演で、「子どもをとらえる視点」を適切に把握することができました。子どもの作品に近づき、活動や目線等、様々な角度から子どもの想いをとらえることによって、「心うるおす活動」を見出すことができ、授業改善や構築のポイントにつながっていったとおさえています。



大会後に、奥村高明調査官から「皆さんが図工や美術を通して考える力や見る力などを伸ばしている姿にうれしくなりました。図工や美術を学ぶことで、自分で形や色やイメージを判断して生きていく力を身に付けることができます。皆さんの姿を全国に紹介させて下さい。これからもすこやかに育ててくれることを心から願っています。」というお言葉をいただきました。この大会の方向性は、間違っていなかったことと、造形教育によって「生きていく力」を身に付けることの重要性を、再確認することができました。

■強いつながりを

全道全国各地より参会いただいた皆様、関係機関各位、授業の公開や提言、助言を快く引き受けていただいた各幼稚園、小中学校、大学の教職員の皆様、児童生徒、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。とりわけ会場校を引き受けていただいた函館市立昭和小学校職員の皆様には、長期にわたる準備と支援をいただきました。この大会の成果を語るときに、会場校の協力体制を外すことはできません。本当に嬉しい限りでした。

札幌での全国大会は、得た知見の大きなエネルギーが、双方向に流れるような「つながり」に、そして確実に継続されていくよう誠実に創り上げていきたいものです。



大会テーマ「創造! ときめき! 実感!」

研究主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」

～第60回全道造形教育研究大会函館大会を終えて～



第60回全道造形教育研究大会 函館大会
研究部長 西 館 純

7月28日(水)、函館大会当日、たくさんの方々に参加していただき、本当にありがとうございます。図画工作・美術科教育にたずさわっているもの一人として、参加していただいた先生方と出会い、そして、授業・提言を通して話し合うことで、心うるおす時間を共有できたことは、この上ない幸せな経験でした。

函館大会では、今回の学習指導要領の改訂にともない、新たな意識のもとで学習指導のあり方を求めていくこととなり、上記の大会テーマ・研究主題を設定して研究を進めてきました。

そして、特に、感性や知性は、造形活動の両輪として機能することで、その特性を高めていくことができると考え、学習内容を「感性と知性が出会う3つのとき」に整理し、分科会も設定しました。

分科会の記録を読み返すと、改めて、先生方と過ごした大会当日を振り返ることができます。

『第1分科会幼稚園』



・生活の活動意欲をそがない基本技術の保障をする

・幼稚園と小学校の引き継ぎは非常に重要である。

『第2分科会小学校かたちづくりのとき』



・教師の言葉がけが重要である。言葉がけによって、考えさせる場面をつくるのが大事である。
・図工美術を教えるとき、感性と知性の融合は必要である。

『第3分科会小学校ひびきあうとき』

・自分と自分以外の人間が言葉や心でつながることは図工だけでなく他の教科でも大切である。
・自分にないよさをもっている友だちの表現を発見することで、子どもたちは寛容する。



『第4分科会小学校つながるとき』



・自分の学びの場所を見つけ造形活動を楽しんでいた。
・共通事項から、学習計画を見直し、題材をつくっていったらいいだろう。
・感性とは論理的でないということ。知性はそれに反して論理的であるということ。

『第5分科会中学校かたちづくりのとき』

・教える側が成長したと感じるとき、子どもも成長している。
・子どもの価値観を高めるには、鑑賞も表現と合わせて大切である。
・評価にワークシートは効果的である。



『第6分科会中学校ひびきあうとき』



・学び合いの学習は大切。
・どっぴりと制作があつてこそ、集団思考と個人の思考が生きてくる。
・友だちの付箋は、「見方の広がり」「認識力・世界観の広がり」を生む。

『第7分科会中学校つながるとき』

・話し合うことの難しさと大切さを考えさせられた。
・共同制作は、その意義を意図的・有機的に深め、つなげていくことで、価値が深まっていく。
・美術とは、ものを創り上げていく文化、体感する文化。



ここでは書ききれないほど勉強させていただいた函館大会も無事に終わることができました。ただ、研究は始まったばかりだと考えています。

今回の大会での先生方とのつながりを大切にし、「創造! ときめき! 実感!」のもと、「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」の授業実践を積み重ねていきます。

大会は終わりましたが、これからの函館の研究にもたくさんのご示唆をいただければと思います。

第60回北海道造形教育連盟全道大会の様子

2010.7.28 函館大会

研究テーマ 創造！ときめき！実感！

研究主題 ～感性と知性の出会い 心うるおす造形活動～



パネルによる18サークル紹介&教育美術展奨励賞作品展示コーナー



受付の様子



函館大会実行委員長
中村 吉秀先生の挨拶



奥村高明先生の講演
『子どもの世界をとらえるまなざし』

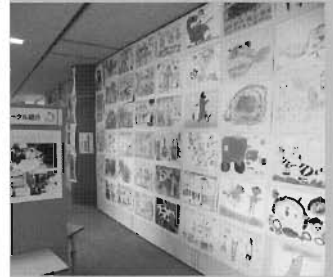
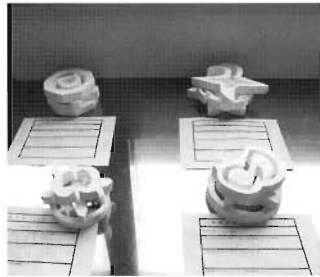


分科会&提言にも熱気あふれる
討議の花が咲きました



全道ネットワーク会議の様子

From函館大会 参加者からの声



『わくわくこうせつえん』の授業を見て

奥尻町立青苗小学校 岩本 智也

まず、教室に入って思ったことは先生の準備のよさでした。子どもたちが自分で用意したものと、粘土や木の葉、マジックなど子どもたちが必要とするであろうものが充実していました。このような子どもの思いや活動を想定しての下準備がしっかりしていたので、子どもたちも一人一人が思い思いに活動することができていました。授業中の子どもたちの表情が生き生きとしていたことも印象に残りました。それと、ハサミを使い終わったらケースにしまうなど、道具の使い方もしっかりと指導されていました。先生からのアドバイスも、子どもたちのことを考えながら適切だったと思います。ありがとうございました。



『光でうつし出す世界より』の授業を見て

鶴居村立下幌呂小学校 日野 道子

対話による鑑賞の仕方は私にとって新鮮な学びとなりました。教室に入ると、そこは驚きの光景が広がっていました。10組ものダンボール箱が子どもたちに見つめられながら並んでいました。箱には小さな切れ込みがあったので、そこから中を覗くであろうことをすぐに察しました。期待が高まります。こんな特別な空間を共有する子ども同士は、自分たちだけの秘密について話すようなワクワクした気持ちだったのでしょね。先生の働きかけで印象的だったのは、感じたことを言葉に表すときに必ず根拠をもたせること、そして、鑑賞に取り組む必要感を持たせることの2点です。話し合う言葉の中に根拠があるから納得でき、友達の感じ方を受け入れたりふくらませたりできるのだと思いました。これは他の教科でも大切なポイントだと思います。私もがんばろうと、2学期が来るのを楽しみにさせてくれた函館大会でした。ありがとうございました。



『母校の歴史に名を刻め！～50周年モニュメントを考える～』を見て

札幌市立あやめ野中学校 館内 徹

開校50周年という節目に当たった機会、これまでの卒業生が残したモニュメントが校地内に設置されているという恵まれた環境、そして何よりも物怖じしない明るい生徒のみなさん（授業をされた櫻井先生が普段からつくりあげてきた信頼関係が感じられます）、間違いなくよい授業をつくってきたのだと思います。当日の授業でのグループごとのプレゼンも、「こんな願いを込めた形です」「周りの環境との調和を考えて」「こんな風に見てほしい」という思いを、絵やモデル、写真やOHPを駆使し、モニュメントの設置場所や色や素材の工夫などを自分たちの経験から考え、相手に伝えようとする意欲的な活動が行われました。完成されたモニュメントを見たとき、この子たちはどんな風に感じるのでしょうか。とても楽しみです。



『夏だ！海だ!!』『キャンプだホイ!!』を見て

札幌市立発寒小学校 松本 和彦

過去数年間、幼稚園の保育活動を見させてもらっています。どの園でも共通して言えることですが、先生たちの熱意がとても感じられます。それは充実した道具類・材料類の準備や、教室に入った瞬間に感じる雰囲気（空間構成とでもいいでしょうか）、そして何よりも先生の子どもたちを温かく見つめる目が感じられます。技術的な面よりも、子どもたちがやりたいと思う気持ちを大切にしていたボート作りはなかなか興味深かったです。また、キャンプの思い出をプラネタリウムで再び表現しようがんばっていた年長さんの様子も素晴らしかったです。材料がダンボールやカラーセロファンとなかなか手強い相手でしたが、このような経験が、小学校に上がってきたとき、『図工大好き!』と言える子につながるのだらうなと思いました。素敵な公開保育ありがとうございました。



全国図画工作・美術教育研究大会

第64回 全国造形教育研究大会

第62回 造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会

第61回 全道造形教育研究大会札幌大会

1 N 北海道

TEAM

HOKKAIDO

2011

子どもの造形教育の未来のために

全道連と日美連の共同開催で行われる北海道大会のコンセプトは、「徹底的に子どもに寄り添った授業作り」を縦軸に「全国の造形教育関係者がつながる分科会」を横軸に考えています。そのために、①子ども視点から授業を見つめ直す「子どものまなざしの扉」子どものための評価を考える「教師のまなざしの扉」造形教育を社会に開いていく必要性・可能性を探る「みらいへのまなざしの扉」で、幼稚園から高校まで20の授業公開と40の提言発表を予定しています。

②「扉」分科会では、全国各地域、異校種の参加者でグループを作り造形教育のこれからを話し合いポスターセッションをしていく、参加者発信型の分科会を予定しています。

その他にも一度は足を運んでみたい魅力的な造形空間が北海道にはたくさんあります。皆さんの参加を心よりお待ちしております。

北海道造形教育連盟会長 菅原清貴
同研究部長 湯浅大吾

研究主題

“わたしを創る” ～自立と共生の造形教育をめざして～

授業実践テーマ

「あったかい！」をつなげ合う造形活動

平成23年7月26日(火)27日(水)28日(木)

主催：全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 北海道造形教育連盟 札幌市造形教育連盟

会場：札幌市立幌西小学校 札幌市立円山小学校 札幌市民ホール 道新ギャラリー 札幌市役所1Fホール ホテルライフォートほか

2011全国大会 in Hokkaido フレ大会&60周年記念式典の様子から

「ころころころ」～ころろくんとの旅、いま、出発！～〈2年生〉

会場：札幌市立円山小学校 日時：平成22年9月3日 授業者：教諭 宮田 珠世

ローラーを使ってできる線や面の形・色、そしてそれらの織りなす重なりや広がりから、一人一人がイメージを広げ旅をする授業でした。

子ども達は、「ぐるぐるの道にしたいな」「色を変えるって楽しいよ」「ここには、森があってね…」など、話しながら体全部を使って造形遊びをしました。ころろくんとが旅をしていると、途中で友達と出会ったり、森をぬけて色の海に入ったりと、ひとりひとりのイメージがどんどん広がり、とても素敵な作品が出来上がりました。

【大会テーマ】“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～

【授業実践テーマ】「あったかい！」をつなげ合う造形活動



「あったかい！」をつなげ合う造形活動をめざして、授業づくりに取り組んでいます。図画工作科として獲得させたい資質・能力や感じ取らせたいことを整理し明確にして実践することで、子どもたちがより自分なりの表現をつくり出し、心を解放して活動に取り組めると考えています。心が解放されることで、一人一人の心に温もりが生まれ「あったかさ」が広がっていく授業を実践しています。そのために、「心の発動」「感動の共有」の2つの視点から授業を考え研究を進めています。



授業検討～話し合いの様子から

記念式典スナップ

ホテルライフオーにて創立60周年をお祝いする記念式典が行われました。OBの方たちもたくさんかけつけてくれました。創立以来、60年間脈々と受け継がれてきた造形教育に対する熱意をあらためて感じ取ることができました。



TEAM北海道の団結力がよりいっそう高まりました!

檜山造形教育研究会の活動

江差町立南が丘小学校 谷口 光伸

檜山造形教育研究会は、檜山管内の図工・美術担当教員の連携を図り研究を深め、相互の指導力と技術向上を目指し、管内教育の発展に寄与することを目的に現在まで活動を続けてきました。特に今年度は、第60回全道造形教育研究大会函館大会が開催され、檜山造形教育研究会も後援団体として実行委員等で大会に参加させていただきました。



ここ数年は、美術免許を保有している教員数の激減からなかなか専門的な観点からの管内研究が進まない現状にあります。その様な中にあっても、昭和46年より檜山管内各町のご理解とご協力のもと、檜山管内児童・生徒美術展を開催町教育委員会との共催で毎年開催し今年度で第40回の節目をむかえます。例年、管内小中学校より400点ほどの絵画やデザインが出展され、児童・生徒の日常生活や学習活動における作品の貴重な発表、交流の場となっております。近年は、開催町の図工美術サークルにも審査会への参加を呼びかけ、出展された作品を通して、子どもの絵の見方などの学習会も兼ねております。

■第40回檜山管内児童・生徒美術展

12月8日～12月12日 乙部町民会館

12月7日 作品搬入、展示、審査会

12月12日 表彰式

檜山管内各校より約400点を展示

根室造形教育連盟

中標津町立広陵中学校 小野寺宏二

根室造形教育連盟は、会員数20名で活動しています。といっても根室管内は大変広く、なかなか集まる機会がありません。実際の活動は、総会の他には、年1回の実技講習会を開催（別海町教育研究会のご協力をいただいて）し、交流を図っています。実技講習会は、管内全小中学校に案内し、開催していますが、学校の多忙化が進んでいるのか、引き付ける内容になっていないのか、年々参加者が減少しています。

それでも、毎年、参加者の方々の熱心な取組・交流があり、充実した講習会になっています。ここ数年の内容は、

- ・平成16年度 木を使って
- ・平成17年度 木版画
- ・平成18年度 シルクスクリーンの基礎
- ・平成19年度 絵手紙&消しゴム印づくり
- ・平成20年度 水彩画の基礎～具象と抽象～
- ・平成21年度 木版画の指導と実際～一版多色木版画～ でした。

今後も、管内の先生方が集まって、実技を通して、研修・情報交流できる場として活用していただけるよう、工夫・改善していきたいと考えています。



『自画像』
(ドライポイント)

あ と が き

連盟報131号では函館大会の様子を紹介しました。原稿を執筆いただいた吉田先生・西館先生ありがとうございました。地区サークル情報ですが、今回は檜山と根室を紹介しました。谷口先生・小野寺先生にもお礼申し上げます。小野寺先生の自画像がとても素敵です。こういう紹介は初めてでしたが、なかなかいいなと思いました。さて、次年度は全国大会IN札幌です。TEAM北海道のパワーを集結して実りある素晴らしい大会にいきましょう。 《北海道造形教育連盟 広報部 大高 雅子・櫻田 悟・松本 和彦》